



第19-138号

2020年3月30日

ディープラーニング技術を活用した鉄道の安全・安心へのチャレンジ

## 既設の駅構内カメラを活用した「転落検知システム」の運用を開始

～パナソニックの画像解析技術を活用した人物自動検出により、ホーム上での事故防止を目指します～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、2020年4月1日（水）初電から、小田急線経堂駅と祖師ヶ谷大蔵駅において、既設の駅構内カメラの映像を活用してホームから線路への転落等を自動検知し、駅係員に発報する「転落検知システム」の運用を開始します。

本システムは、パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社（以下パナソニック）と連携して構築したものです。パナソニックが有する画像解析とディープラーニング（深層学習）技術を鉄道環境に応用し、既設の駅構内カメラの映像をリアルタイムに解析を行い、線路への人物の転落等を検知した際に駅事務所内の係員へ発報通知します。既に、2019年12月から両駅で、カメラごとの検知エリア（ホーム端から線路）の設定や、人物と列車の区別するための事前学習を実施しており、ホームから転落した人物やホーム端に一定時間留まった触車の恐れがある人物を検知した際は、駅務室内の専用端末にアラートを出すとともに、カメラ映像を表示します。駅係員は、それを確認することで、列車の緊急停止等の安全措置を迅速に講じることができます。

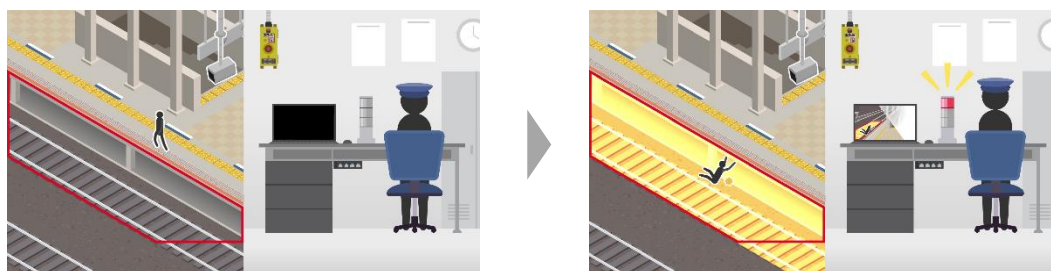
当社では、中期経営計画において鉄道の「先進的な技術による高度化」を掲げています。今後も、日本一安全な鉄道会社を目指して新たな技術導入等にも積極的に取り組み、安心・快適に小田急線をご利用いただけるよう努めてまいります。

既設の駅構内カメラを活用した「転落検知システム」の運用開始の詳細は下記の通りです。

### 記

- 1 使用開始 2020年4月1日（水）初電
- 2 対象 経堂駅・祖師ヶ谷大蔵駅
- 3 運用時間 初電から終電まで
- 4 転落検知システムの仕組み（イメージ）

駅構内カメラが、線路への転落やホーム端に一定時間留まる人物を検知した場合  
警告灯が点灯・鳴動し、駅係員へ通知



以上